

新聞コラムを利用した学び

岩瀬日本大学高等学校

1. 研究テーマについて

新聞の一面には、朝日新聞の「天声人語」をはじめ、読売「編集手帳」や毎日「余録」、産経「産経抄」などコラムが掲載されている。新型コロナウイルス感染拡大による休校期間中に、現代社会の担当の時杉先生から「新聞のコラムを読んで見出しをつけてみよう」という課題が配信された。今までは新聞を読むことに苦手意識をもっていたが、新聞のコラムなら比較的文字数も少なく、読みやすそうな印象だったので、文章を読むのが苦手な自分にも実践できると考えた。

2. 仮説～どのような力が身に付くのか～

- (1) 文章を要約する力が身に着く
- (2) 語彙力が高まる
- (3) 文章の流れや、読者を引き込むための言葉遣いや表現と出会うことができる
- (4) 文章を読むことが苦でなくなる。
- (5) 集中力が高まる

3. 実践報告

(1) 「まなび場天声人語」

朝日新聞では、2021年7月から、毎月1回、お題となる天声人語を読んで、15字以内で見出しをつけて投稿する「まなび場天声人語」がスタートした。優秀作は毎月第4月曜日の朝刊で掲載し、図書カードが贈られるという。見出しと、その見出しを考えた理由(100～200字)の2点で選考されるそうだ。

先生からお題となるコラムと応募用のFormがGoogle Classroomで配信されるので、15字以内の見出しを付けてその理由を添えてFormを送った。

(2) 新聞コラムの「書き写しノート」

「まなび場天声人語」に応募するようになってから新聞のおもしろさや読みやすさを実感し、さらに新聞に触れることで、語彙力や要約力を高めたいと思った。

各新聞社からコラムの書き写しノートが販売されているそうだが、私は、朝日新聞の「天声人語書き写しノート」を使用した。文章の中で読者に伝えたいことやキーとなる文章にマーカーを引いたり、声に出しながら書いたりして、常に自分の意見や考えをもちながら読むよう心掛けた。

私は、先生から渡される天声人語とともにその内容に関連する新聞記事を照らし合わせながら読み、目につきやすくするために端的でわかりやすい言葉を選ぶ。文章の中で一番伝えたい内容を見出しに入れるようにした。

4. 「いばらき春秋」著者とのオンライン取材

新聞コラムに興味を持った私は、茨城新聞のコラム「いばらき春秋」を執筆する編集局長の渡辺勝さんにオンライン取材を行った。限られた字数でまとめるコツや、コラムを執筆する際に意識していること、また、通常の記事と異なり、コラムには執筆者の個性が表れ、渡辺さんも常に自分らしい言葉を探したり考えたりしているそうだ。読者の心を掴み、共感を呼び起こすのがコラムの価値なのだと知った。

5. 成果と課題

(1)の「文章を要約する力」や(2)の語彙力は今後も継続することでさらに向上させていきたい。

(3)については、普段は読まないような文章に触れることができるので、新たな発見があった。(4)については、コラムで読んだ内容が学校の授業に出てくることがあるので、興味を持って授業を受けることができている。また、コラムに書かれていた内容を授業で深く学んだり、クラスメイトと意見を共有したりするので、授業がとてもおもしろく感じるようになった。(5)については、読むだけではあまり印象に残らなくても、書くことで記憶に残りやすく、より自分のものになったと感じている。

今後の課題としては、知識の引き出しを充実させるためにも、日頃から継続的にコラムをスクラップするなど活用することで社会の関心事やその変化に気づくことができると思う。また、同じ出来事でも、別の新聞社のコラムを比較読みすることで、多面的な視点も養いたいと思う。